

令和6年度第2回千代田区産業振興連絡調整会議 議事録

- 日 時：令和7(2025)年1月21日(火) 10:00～12:00
- 会 場：千代田会館 10階 研修室
- 出席状況：出席委員11人
- 千代田区：地域振興部長、商工観光課長、産業企画担当課長、商工振興係長、経営相談・融資担当係長、産業企画担当係長、観光・地方連携係担当係長、事務局2名
- 議 題：(1) 令和6年度の事業進捗等について報告
(2) 外国人向け観光ツアー等について(The Heart of Tokyo)

(議事要旨)

1. 開会あいさつ
2. 議事

※ ●：委員からの質疑 ➤：担当者回答

(1) 令和6年度の事業進捗等について報告

<事務局から説明>

●商工関係団体の活動・組織の強化に関して、商店街を対象とした取り組みが多いと思うが、商店街に属していない商店や飲食店への支援策や考えていることはあるか。
➤商工観光課長) 商店街は町会と並んで地域コミュニティの重要な要素と考えており、その意味でさまざまな商店街の支援を行っている。ただ、一方、商店街に属さない個別の商店や飲食店への支援策については、現在のところ少ないのが実情である。特別区では、企業住民税や事業所税などの、本来、産業振興に活用すべき税源が都税であり、区民の税金のみでどこまで個別の商店や飲食店に支援できるかという視点で財源の制約がある。そのため、支援策の実施が難しく、やり切れていないというのが現状である。

●商店街ほどの規模ではないものの、地域に根差して町会や地域のために貢献している店舗に対して、町会がその商店街に準ずる団体としてまとめた場合には、支援を検討してほしい。

➤地域振興部長) 委員のご提案は、商工振興そして産業振興と、地域コミュニティの境界域と捉えている。先ほど課長が説明したように、現行の商店街振興のための仕組みには制約があり、今後の検討課題としている。一方で、商店の町会加入促進事業な

どのアイデアは地域コミュニティの活性化やその支援の中で、形にするため工夫ができるかコミュニティ担当とも共有し、検討していく。

●秋葉原は、世界中から多くの観光客が訪れる人気のエリアであるが、地域住民や事業者の意識にはばらつきが見られる。最近、秋葉原ミーティングが開催され、秋葉原の魅力を再確認したとともに次の展開の方向性が見えたように感じられた。

ただ、千代田区は歴史や文化が豊かであり、皇居も存在するため、秋葉原のサブカルチャーとは異なる観光客が訪れる。一方で、台東区や墨田区などの下町エリアからの観光客も多く、これらの地域との連携が重要であると考えられる。秋葉原のブランドを使うことができるうちに都内の他区との連携強化を検討して欲しい。

➤商工観光課長）東京都全体で様々な取り組みが進められており、今年度は大丸有地区でライトアップが進行中である。また、神保町や秋葉原でも同様の取り組みが検討されているが、面的な展開が難しいという課題がある。秋葉原ミーティング後に、アンケート調査が実施され、583件の有効回答が得られた。回答者の約半数が50代、60代であり、秋葉原がこの年代に人気があることがわかった。住民の多くは最新技術に触れたい、趣味を満足させたいという希望を持っている。また、秋葉原が好きな人々は、趣味の満足や最新技術に触れること、秋葉原ならではの体験を求めている。区としては、インバウンド観光客の増加に伴うオーバーツーリズムの問題を考慮し、安全・安心面を含め、地域の方々と協力しながら秋葉原観光を推進していきたいと考えている。

●創業支援・スタートアップ・エコシステム構築に向けた支援について、まちみらい千代田で実施している「ビジネス起業塾」の受講者 60 人のうち、実際に創業したのは4人（約3%）であった。創業に踏み切れない理由として、起業家育成の教育制度の不十分さと、起業失敗時のセーフティーネットの不備が挙げられた。欧米ではセーフティーネットが充実しているということもあり、起業率が高い。日本でも産業競争力強化のため、セーフティーネットの整備が必要であると感じている。区としての対策について意見等あればお尋ねしたい。

➤商工観光課長）失敗時のセーフティーネットは現状なく、区民の税金を使ってどのような支援ができるかというのは非常に悩ましいところである。

●欧米では国家プロジェクトとして起業支援が行われており、国が直接施設を設け、人材や資金を投入している。基礎的自治体が単独で行うのは難しいが、受け皿となる支援策は必要であると考えている。

●都内の別の市での会議で、創業が増えているという話を聞いた。千代田や渋谷で勉強やネットワークを広げ、開業場所としてコストの安い地域を選ぶ人が多いという。こうした開業の仕方もあると感じたが、どこまでフォローするかは難しいと感じた。

➤産業企画担当課長) 今年度8月に実施した学生アイデアソンで、学生が感銘を受けた講師の言葉が二つあった。一つは「本を読んでも泳げるようにはならない」という言葉であり、もう一つは「ちょっと難しいチャレンジをしないと次の世界が開けない」という言葉である。若い世代に対して、チャレンジ精神を醸成するような機会を提供することに取り組んでいきたい。

●千代田区が創業支援に力を入れるメリットは何かあるのか。

➤産業企画担当課長) 千代田区が創業支援に力を入れる理由として、1つは、新規参入者を増やすことで区の活力を維持し、成長を促すためである。また千代田カルチャーテックやスタートアップ・エコシステム構築の支援を通じて、事業者を集積し、成長・定着を図り、地域への還元を促すサイクルを支援することが区の役割であると考えている。

➤商工観光課長) 商工観光課長を拝命してから、常に心に留めているのは、人を育てることが非常に重要であるということである。区民が起業するかどうかに関わらず、地域の産業を維持・向上させ、育った人たちと地域をつなげることが大切である。育った人たちが地域の課題解決に貢献する社会をつくることが区役所の役割であると認識し、日々尽力している。

●地方連携の今後の方向性について、能登の地震を契機に、都市と地方の連携がこれまでの物の売買や観光といったシンプルなものから、より実態的で相互的な関係へと進化する必要があると考えている。国の二地域居住法案やふるさと住民登録制度が検討されるなど、新しいライフスタイルや学び方が広がりつつある。千代田区が先駆けて、様々な人たちを巻き込み、試行錯誤しながら新しい地方連携のビジョンを深めていけると良いのではないかな。

➤商工観光課長) 前例のない新しい取り組みがある一方で、千代田区と地方の地域住民が有機的に連携し、互いに利益をもたらす関係を築くことは非常に難しく、課題が多いと感じている。ご指摘の通り、生活様式やニーズの変化に対応することが重要であるが、千代田区民が地方とどのように関わり、互いに利益を享受するかについては、まだ十分に組み立てていないと認識している。新しいビジョンについては、様々な意見を取り入れながら、できることから進めていきたいと考えている。

➤地域振興部長) 都市と地方の関係について、単純な東京一極集中論ではなく、東京や他の大都市が持つマッチング機能が新たな価値を生み出す可能性がある。例えば、脱炭素やウェルビーイングなどのテーマで新しい交流や価値創造が期待されているように、千代田区でのスタートアップや新しい取り組みが、社会課題解決に繋がる可能性がある

と考えている。しかし、現状は地方と千代田区双方にとってのメリット・デメリットは何かという議論になりがちであり、もう少し千代田区のポテンシャルを生かした交流のビジョンを検討する必要があるのではないかと考えている。

●地域に根差した産業振興の取組み（新産業振興イベント実施支援事業）について、個性的なまちが集まる千代田区らしいと感じていたが、今回抜本的な見直しが行われることになった理由について知りたい。

➤産業企画担当課長）令和4年度に千代田区の産業特性を調査し、秋葉原のeスポーツと地域産業の親和性を見出した経緯がある。しかし、事業の検討にあたって、いかに区の課題を解決し、区民の皆さまをはじめとしてその効果をお返しできるかという点で難しいことが判明し、一旦足踏み状態となった。今年度においては、地域の課題を抽出するため秋葉原ミーティングやアンケートを実施した。今後は、秋葉原や神保町、駿河台などの地域特性をつなげることで新たな価値を創出する取組みを研究していく。

●商店街と大学の連携支援について、地域の学生がアルバイトとして働いてくれることで、卒業後も店舗や地域とのつながりが続いている。日々の営業において、地域の学生が自然に働ける環境を整えることが重要であり、プロジェクトにそのような支援が含まれることを望んでいる。

➤商工観光課長）イベントでの学生との連携は非常に良い形で終わり、人と人がつながることの大切さを実感した。委員の指摘通り、日々の連携という中でどういったことができるのか、大学の意向も伺いながら考えていきたい。

●経営相談について、区が直接関与しないとしても、今後の方向性としてM&A（企業の合併・買収）を含めるべきであると思う。創業者の高齢化や事業環境の変化に対応するためにも必要な項目である。

➤商工観光課長）M&Aについては、現在は東京都や中小企業振興公社が対応している。区としては、現時点ではノウハウが不足しており、手が出せない状況であるが、研究していく必要があると感じている。商店街の高齢化も進んでいるため、来年度以降、区としてやるべきことの研究を進めたいと考えている。

➤地域振興部長）千代田区には江戸時代から続いている老舗も多く、持続支援が課題である。老舗は単なる事業性や経済性だけでなく、商業文化の継承という点でも重要である。課題解決策の一つとしてM&Aの手法の研究も対応していきたいと考えている。

●秋葉原の景観を守るための規制が厳しくなっている。秋葉原のアニメやゲームの看板が観光資源となっているため、一般の商店街と同じ規制を適用すると観光地としての魅力が失われる可能性がある。千代田区から東京都に対し、秋葉原を特区として特別な規

制を設けるよう提案し、安全・安心を確保しつつ、看板の取り付けや申請ルールを整備するなど何か方法はないかお尋ねしたい。

➤商工観光課長）看板や広告だけでなく、まちの景観や道路の使い方について、これまでのルールに収まらないことも増えていると感じる。景観を保つためには、単純な規制だけでは不十分であり、地域や住民の考え方に応じた対応が求められる。商店街や地域の業種別団体と相談しながら、できることを進めていきたいと考えているが、東京都の対応範囲もあるため、できる限りの対応をしていきたい。

➤地域振興部長）千代田区全体の景観まちづくり計画について、神田や秋葉原は他の地域に比べて緩やかな規制があるが、どこまで求めるかが課題である。計画策定から4、5年が経過しており、エリアを絞った景観の在り方について議論する余地がある。東京都の屋外広告物条例は厳格だが、地域でルールを作り運用することで緩和できる部分もある。大手町・丸の内・有楽町エリアではバナーの審査を行っており、秋葉原 TMO でも同様の取り組みがある。エリア全体としての取り組みを今後検討する必要があると感じている。

（2）外国人向け観光ツアー等について

観光庁の「特別な体験の提供等によるインバウンド消費の拡大・質向上推進事業」を活用した北の丸公園初のイベント事業である The Heart of Tokyo の実施について説明（※The Heart of Tokyo の事業詳細が記載されたチラシを資料として配布した。）

3 閉会